

# 絵本に含まれる基本的な動きの種類と運動遊び

Types of fundamental movements and exercise play included in picture books

堀内 亮輔                      篠原 俊明<sup>1)2)</sup>                      長野 康平<sup>3)</sup>  
HORIUCHI Ryosuke      SHINOHARA Toshiaki              NAGANO Kohei

## Abstract

In the three laws and regulations, matters related to the exercise of young children are mainly indicated in the area of “health”, but in light of the need for comprehensive childcare and education in the five areas, it is important to have a perspective on movement in each area.

In this study we mainly focus on picture books shown in the area Language, the purpose of this study was to organize the Types of fundamental movements and exercise play types contained in picture books as basic materials for the development of picture books that take into account the various movements experiences required for early childhood movements.

For 60 existing picture books, 36 types of fundamental movements were set, and exercise play events were classified into 10 types based on the exercise areas of the Physical Education section of the Course of Study. As a result, 35 types of fundamental movements were confirmed out of the 36 fundamental movements that were set. 10 types of exercise play were included, and 81 types of exercise play were identified. This result shows the possibility of including various types of fundamental movements and exercise play of each type in a picture book without bias.

Based on the results of this study, we will develop picture books that contribute to the experience of fundamental movements of young children, and investigate whether picture books affect the experience of fundamental movements of young children.

## 要旨

3法令において幼児の運動に関する事項は、主に領域「健康」に示されているが、5領域を総合的に保育・教育していくことの必要性を踏まえると、各領域で運動の視点を持つことが重要である。

---

<sup>1)</sup> 共栄大学教育学部 (Faculty of Education, Kyohei University)

<sup>2)</sup> 日本体育大学大学院後期博士課程 (Doctoral Degree Program, Nippon Sport Science University)

<sup>3)</sup> 比治山大学短期大学部 (Hijiyama Junior College)

連絡先：〒186-8668 東京都国立市富士見台4-30-1 TEL: 042-572-4131 E-mail: r-horiuchi@twcpe.ac.jp

本研究では主に領域「言葉」に示されている絵本に着目し、幼児期の運動に必要とされている多様な動きの経験に考慮した絵本を開発するための基礎資料として絵本に含まれる基本的な動きの種類と運動遊びの種目を整理することを目的とした。

既存の絵本60冊を対象に、基本的な動きの種類は36種類を設定し、運動遊びの種目は、学習指導要領解説体育編の運動領域を参考に10系統に分類した。その結果、基本的な動きの種類は、設定した36種類の基本的な動きのうち、35種類の動きが確認された。運動遊びの種目は、10系統の運動遊びが含まれており、81種目の運動遊びが確認された。この結果は、絵本のなかに、様々な種類の基本的な動きと各系統の運動遊びを偏りなく含むことの可能性を示すものである。

今後の展望として、本研究の結果をもとに幼児の多様な動きの経験に寄与する絵本を開発し、絵本が幼児の多様な動きの経験に影響を及ぼすのかを検討することになる。

**Keywords:** Early childhood, Childcare, “Health”, “Language”, Various Movements,  
キーワード：幼児期、保育、領域「健康」、領域「言葉」、多様な動き

## 1. 緒言

1964年から毎年実施されている体力・運動能力調査によると、児童の体力・運動能力は1985年をピークに低下傾向を示し、現在においても低い水準に留まっていることが報告されている（スポーツ庁、2022）。また、全国規模の幼児の運動能力調査の推移に関する報告をみると、幼児においても児童と同様の傾向が認められている（森ほか、2010）。一方、中村ほか（2011）は7種類の基本的動作の動作様式について1985年の幼児と比較して2007年の幼児は未熟な動作様式の割合が高いことを報告しており、運動パフォーマンスを生み出す動作様式そのものの発達が未熟な段階にとどまっており、このことが体力・運動能力低下の要因の一つであることを指摘している。

こうした状況の中、幼児期運動指針（文部科学省、2012）が策定され、幼児の運動は多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れる必要性が示されている。また、我が国の保育・教育のガイドラインとなる「幼稚園教育要領（文部科学省、2018）」、「保育所保育指針（厚生労働省、2018）」、「幼児連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、2018）」（以下、3法令）の領域「健康」に

は「様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること」と明記されており、幼児期における「多様な動きの経験」が重要視されている。さらに杉原ほか（2011）は、運動能力が高い幼児ほど基本的な動きを数多く経験していることを報告し、幼児が1日の大半を保育施設で過ごしていること（ベネッセ、2022）を踏まえると、保育施設において、幼児が遊びを中心に多様な動きが経験できる運動の機会を保障していくことが重要といえる。

3法令において、運動に関する内容は、主に領域「健康」で示されている。しかし、5領域を総合的に保育・教育していくことの必要性を踏まえると、「健康」以外の領域でも運動の視点を持つことが重要と思われる。例えば、3法令の保育内容の領域「言葉」に「子どもは絵本や物語を見たり、聞いたりした内容を自分の経験と結び付けながら、想像したり、表現したりすることを楽しむ」と記されている絵本は、保育実践を支える教材や幼児の遊びの一つであることから、領域「健康」以外の領域で運動を考える際のツールとなり、絵本と運

動を関連させて幼児の運動の機会を保障していく可能性が考えられる。

絵本を用いた幼児の運動の機会として、矢幅ほか(2021)が、引っ張り合い、かけっこ、すもう、幅跳び、たからさがしといった5つの運動遊び種目から、引く、走る、押す、跳ぶといった基本的な動きが含まれている既存の絵本を選定し、絵本のストーリーに基づく有効な運動指導方法について検討しており、絵本を用いた運動遊びの実践の可能性を示している。また、運動遊びの実践ではないものの、絵本の読み聞かせから生活発表会に繋がっていく実践の過程を報告した研究(川崎, 2019)や、絵本の世界を運動会へとつなげる幼児の主体的な活動について報告した研究(齊藤, 2019)、絵本の読み聞かせから展開された想像的探検遊びにおける子どもの空想と現実との間の心の揺れ動きを報告した研究(富田ほか, 2022)がある。さらに、幼児が絵本の世界を再現して遊びを展開していく実践が多数報告されており(仲本・樋口, 2017)、絵本が契機となり、園行事を含めた日常の保育や幼児の遊びが豊かに展開されている。これらを踏まえると、絵本を契機として運動遊びが展開されることが考えられ、幼児の多様な動きの経験に考慮した運動遊びに関する絵本を開発することができれば、絵本を用いて保育実践が展開されたり、幼児が絵本の世界を再現して遊ぶなかで、多様な動きの経験に寄与する可能性が考えられる。

幼児の多様な動きの経験に考慮した運動遊びに関する絵本を開発するためには、絵本にどのような基本的な動きを含めることができるのか、どういった運動遊びを選定していくことができるのか等の基礎資料があることが重要である。これまで、運動遊びに関する絵本を開発した研究として、春日ほか(2012)が幼児に戸外遊びや運動遊びの大切さを伝えることを目的とした絵本を開発し、幼児の身体活動量に与える効果について明らかにしているが、基本的な動きや運動遊びの種目を整理した研究はみられない。

そこで本研究は、幼児の多様な動きの経験に考

慮した絵本を開発するための基礎資料を得るために、絵本に含まれる基本的な動きの種類と運動遊びの種目を整理することを目的とする。

## II. 方法

### 1. 対象

本研究においては、絵本にどのような基本的な動きや運動遊びが含まれているのかといった基礎資料を得るために、無数にある絵本の中から、幼児の運動に関連する絵本を選定する必要がある。矢幅ほか(2021)は絵本を用いた運動遊びの実践研究を実施した際、絵本を選定するために、中川素子著の「スポーツするえほん(中川, 2019)」を参照している。同書ではスポーツに関連する絵本を60冊紹介しているが、スポーツを題材にしていることから、数多くの基本的な動きや様々な運動遊びの種目が絵本に含まれていることが予想され、幼児の運動に関連した絵本がある程度、集約されているものと考えられる。そのため、本研究で対象とする絵本は、中川素子著の「スポーツするえほん(中川, 2019)」で紹介されている絵本60冊を選定した。

### 2. 基本的な動きの種類の設定

基本的な動きの種類は、中村(2011)に倣い36種類を設定した。基本的な動きの種類を用いて運動遊びを分類した研究として、小澤ほか(2021)がある。そこでは、小学校学習指導要領解説体育編(文部科学省, 2018)に基づき、基本的な動きを4系統(体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動き)に分類している。本研究においては、小澤ほか(2021)が運動遊びに含まれる基本的な動きを分類したように、絵本に含まれる基本的な動きを分類することとした。そのため、中村(2011)が設定している36種類の基本的な動きを、小澤ほか(2021)の基本的な動きの系統の分類を用いて、体のバランスをとる動き9種類、体を移動する動き9種類、用具を操作する動き12種類、力試しの動き6種類に振

り分けた。

### 3. 絵本に含まれる基本的な動きの種類分類

絵本に含まれる基本的な動きの種類分類は、堀内ほか(2022)に倣い、分類が主観性によらず、より妥当性の高いものとなるように分類を3回行った。

分類は、筆者と基本的な動きの種類分類方法について十分な説明を受けた大学生6名で行った。なお、絵本に含まれている基本的な動きの種類を分類する際、絵と文章から情報を得て判断した。例えば、絵本のなかで「かけっこ」をしている場面が描かれている時は「はしる」動きとしてカウントした。また、絵だけでは判断できなかった場合、文章に「かけっこ」と表記されていれば、同様に「はしる」動きとしてカウントした。絵と文章から動きが断定できない場合や動物、忍者等の絵で人間には遂行が不可能と判断した動きが含まれていた場合には、基本的な動きとしてカウントしなかった。

### 4. 絵本に含まれる運動遊びの種類分類

本研究においては、多様な動きの経験に考慮した絵本を開発するために、絵本を基に幼児が偏りなく運動遊びを経験できるようにしていく必要があると考えられることから、様々な運動遊びを選定していくことが望ましい。そのためには、絵本に含まれている運動遊びを分類して整理する必要がある。しかし、基本的な動きの種類は示されている(小澤ほか, 2021)ものの、運動遊びに関する分類がされていない。運動遊びの種類として、小学校学習指導要領解説体育編(文部科学省, 2018)では、低学年の運動領域を体づくりの運動遊び、走・跳の運動遊び、器械・器具を使った運動遊び、表現・リズム遊び、水遊び、ゲーム遊びの6系統に整理されている。また、体づくりの運動遊びにおいては、体ほぐしの運動遊びと多様な動きをつくる運動遊びがあり、多様な動きをつくる運動遊びには、体のバランスをとる運動遊び、体を移動する運動遊び、用具を操作する運動遊び、

力試しの運動遊びの4系統で構成されている。そこで、運動遊びの種類は小学校学習指導要領解説体育編(文部科学省, 2018)の低学年で示されている運動領域から、①体のバランスをとる運動遊び、②体を移動する運動遊び、③用具を操作する運動遊び、④力試しの運動遊び、⑤走・跳の運動遊び、⑥器械・器具を使った運動遊び、⑦表現・リズム遊び、⑧水遊び、⑨ゲーム遊び、運動領域に分類されない運動遊びは、⑩その他の10系統の運動遊びとして分類した。

運動遊びの種類は同上の大学生6名と筆者が行った。絵本に含まれている運動遊びを分類する際、絵と文章から情報を得て判断した。例えば、絵本のなかで「鉄棒」をしている場面が描かれている時は「器械・器具を使った運動遊び」として分類した。また、絵だけでは判断できなかった場合、文章に「かけっこ」と表記されていれば、「走・跳の運動遊び」として分類した。なお、基本的な動きの種類及び運動遊びの種類は、2022年11月～2023年1月に行った。

## III. 結果

中川素子著の「スポーツするえほん(中川, 2019)」で紹介されている絵本60冊に含まれていた基本的な動きの種類をみると、選定した36種類の基本的な動きのうち、「つむ」を除く35種類の動きが確認された(表1)。

絵本に最も多く含まれていたのは「たつ」で59冊、次いで「つかむ」で54冊、「もつ」で51冊、「ささえる」で39冊、「はしる」で36冊、「おきる」で35冊、「のる」で34冊、「あるく」で29冊、「とぶ」で28冊、「なげる」で27冊と続いた。一方、絵本に最も含まれていなかったのは「つむ」で0冊、次いで「わたる」、「さかだちする」、「おさえる」で2冊、「ほる」、「たおす」で4冊、「くぐる」で5冊、「まわる」、「とる」、「わたす」、「おす」で9冊と続いた。

また、選定した絵本60冊の中から81種目の運動遊びが確認された(表2)。



絵本に含まれていた運動遊びの種目 (表2)

系統別	運動遊び	種類	合計
①体のバランスをとる運動遊び	そり遊び	1	81
②体を移動する運動遊び	ベッド跳びはね遊び、とんねるくぐり、だるまさんがころんだ、すべりだい、つなのほり	5	
③用具を操作する運動遊び	縄跳び、大縄跳び、輪投げ、フリスビー、キャッチボール、リフティング、バッティング、すいか割り	8	
④力試しの運動遊び	つなひき、相撲遊び	2	
⑤走・跳の運動遊び	かけっこ、リレー、マラソン、走り幅跳び、走り高跳び、障害物走、ブラインドマラソン、棒高跳び、ハードル	9	
⑥器械・器具を使った運動遊び	鉄棒、跳び箱、吊り輪、トランポリン、ブランコ、アスレチック	6	
⑦表現・リズム遊び	たいそう、ダンス、チアダンス、バレエ、ヨガ、新体操、にんじゃごっこ	7	
⑧水遊び	プール遊び、水球遊び、とびこみ、シンクロナイズドスイミング	4	
⑨ゲーム遊び	サッカー、野球、玉入れ、テニス、卓球、バレーボール、ハンドボール、ゴルフ、ドッチボール	9	
⑩その他	柔道、空手、剣道、フェンシング、ボクシング、しゃげき、アーチェリー、やり投げ、円盤投げ、砲丸投げ、重量あげ、釣り、シュノーケル、砂場、金魚すくい、座禅、シャボン玉、やまのぼり、雷合戦、雷だるま、スキー、クロスカントリー、スキー、フィギュアスケート、カヤック、カヌー、ヨット、自転車、車いすテニス、車いすバスケット	30	

系統別にみると、「体のバランスをとる運動遊び」1種目、「体を移動する運動遊び」5種目、「用具を操作する運動遊び」8種目、「力試しの運動遊び」2種目、「走・跳の運動遊び」9種目、「器械・器具を使った運動遊び」6種目、「表現・リズム遊び」7種目、「水遊び」4種目、「ゲーム遊び」9種目、「その他」30種目であり、10系統すべての運動遊びが含まれていた。

#### IV. 考察

##### 1. 絵本に含まれている基本的な動きの種類と運動遊びの種目

本研究において、中川素子著の「スポーツするえほん(中川, 2019)」で紹介されている絵本60冊に含まれていた基本的な動きの種類は選定した36種類の動きのうち、「つむ」を除く35種類の動きが確認された。このことから、多様な動きの経験に考慮した絵本を開発するにあたり、絵本の中

に様々な種類の基本的な動きを含めることができる可能性が示された。保育時間内において、園庭、室内、公園といった幼児が運動する環境や、一斉指導型と自由遊び型といった保育形態別で観察されている幼児の基本的な動きを捉えた一連の研究(油野, 1988; 武田・赤木, 2010; 杉原ほか, 2011; 吉田, 2016; 長野ほか, 2019; 篠原, 2018; 篠原ほか, 2020; 長野・中村, 2021; 長野ほか, 2022)においては、「さかだちする」、「うく」、「おさえる」、「たおす」、「こぐ」、「ほる」、「およぐ」、「あてる」、「わたす」といった動きが出現しにくいことが報告されている。絵本に様々な種類の基本的な動きを含められる可能性があることを踏まえれば、絵本を用いて保育実践を展開していくことや絵本を再現して幼児が遊ぶことによって、日常の保育で出現しにくい基本的な動きの経験を補える可能性がある。

運動遊びの種目は、分類した10系統すべての運動遊びが含まれており、81種目の運動遊びが確

認められた。このことから、各系統の運動遊びを偏りなく含めた絵本を開発できる可能性があると考えられる。例えば、表2の結果をみると、「体のバランスをとる運動遊び」では「そり遊び」、「体を移動する運動遊び」では「とんねるくぐり」、「用具を操作する運動遊び」では「大縄跳び」、「力試しの運動遊び」では「つなひき」、「走・跳の運動遊び」では「障害物走」、「器械、器具を使った運動遊び」では「鉄棒」、表現・リズム遊びでは「ダンス」、「水遊び」では「とびこみ」、「ゲーム遊び」では「玉入れ」といった運動遊びの種目を選定することができる可能性が考えられる。

他方で運動遊びの種目が少なかった系統が確認され、「体のバランスをとる運動遊び」では「そり遊び」の1種目、「力試しの運動遊び」では「つなひき」、「相撲遊び」の2種目のみであった。運動遊びに関する絵本を開発する際、各系統において数多くの運動遊びのなかから絵本に含む種目を選定していく必要が考えられ、本研究で不足している系統の運動遊びを補足していくことが望ましい。補足する手立てとして例えば、堀内ほか(2022)や小澤ほか(2021)が運動遊びの種目を整理しているが、そこで紹介されているような運動遊びを不足している系統に含めていくといったことが考えられる。

力試しの運動遊びは、「つなひき」、「相撲遊び」が含まれており、主に「おす」、「ひく」、「たおす」といった基本的な動きが含まれていた。その他に本研究で分類した「力試しの動き」をみると、「はこぶ」、「おさえる」、「ささえる」動きがあるが、体育科学センター(1980)がまとめた基本的な動きの分類によると、これらの動きは「荷重動作」として整理されている。本研究でも、これらの基本的な動きは、運動遊びのなかに含まれているというよりは、用具等を支えながら運んだりする場面として描かれており、用具等を移動するための動きとして含まれていた。これらのことから、絵本のなかで「力試しの動き」を含む際、「つなひき」、「相撲遊び」といった運動遊びを選定するだけでなく、用具等を移動する場面を描くことでより多

くの基本的な動きを含むことができる可能性が考えられる。

各系統の運動遊びにおいては、鉄棒や跳び箱のような特定の運動種目が含まれていたが、杉原ほか(2010)は、幼稚園の保育時間内において体操、水泳、マット、跳び箱、鉄棒といった特定の運動種目の指導頻度が高い幼稚園ほど、特定の運動種目を指導していない幼稚園よりも運動能力が低いことを報告しており、特定の運動の上達を目指した運動指導は幼児期の発達特性に見合っていないことを指摘している。一方で杉原(2014)は、運動の上達そのものを否定するのではなく、幼児が遊びのなかで一生懸命取り組んだり、動きを工夫したり、自分のやりたい動きに挑戦したりする運動経験を通して、結果的に運動が上達していくことが望ましいと述べている。中村(1993)は、子どもの遊びを、主体的な楽しい活動であり、それ自体が目的となっている活動としているが、絵本のなかに特定の運動種目を選定して含む際、特定の運動の上達を目指したのではなく、一生懸命取り組んだり、動きを工夫したり、自分のやりたい動きに挑戦しながら「遊ぶ」様子として描いていくよう留意する必要がある。

## 2. 運動遊びに関する絵本の開発に向けて

春日ほか(2012)が、幼児に戸外遊びや運動遊びの大切さを伝えることを目的とした絵本を開発した際、絵本のストーリーの中に、子ども、保育者、保護者に向けて、戸外遊びや運動遊びの大切さをメッセージとして込めているように、本研究の結果を基に絵本を開発する際にも、絵本のストーリーの中に、幼児期において多様な動きや様々な運動遊びを経験することの大切さをメッセージとして込めていく必要があるだろう。

また、絵本を用いた運動遊びの実践報告(矢幅ほか, 2021)や、絵本によって保育実践が展開されていくことが報告されており(川崎2019;齊藤, 2019;富田ほか, 2022)、絵本は保育者が保育を展開していく際の契機としての役割も担っている。石井ほか(2021)が運動遊びの指導に不安を抱え

る保育者にとって、絵本を活用することは、指導方法の選択肢が増えるという意味で一定程度の価値があると述べている。このことから、保育者が絵本を基に運動遊びや日常の保育を展開しやすいような内容にしていく必要がある。その内容の一つとして、保育者が運動遊びを実践する視点から絵本を描くことが考えられる。長野ほか(2022)は、現代の自由遊びでは基本的な動きの経験が幼児の基本的動作の発達に影響する可能性が低いことから、幼児期の運動に関する取組を充実する必要性について指摘している。こうした幼児期の運動の取り組みについて石井(2010)は、幼児が主体的に身体的な活動の世界へ引き込まれていくように「やってみたい」「なってみよう」刺激を用意する必要性について述べており、幼児期の運動の取組において、保育者が意図的に実践を展開していく必要性が伺える。例えば、長野・中村(2021)は一斉保育型と自由遊び型といった形態の異なる遊び環境における基本的な動きと身体活動量の特徴について検討するなかで、一斉保育型では、アイスブレイク、遊具を用いた自由遊び、ゲーム遊びを取り入れ、自由遊び型では、子どもが遊びたくなるような遊具環境を整えることで、様々な運動遊び場面で遊ぶ幼児の多様な動きの種類と頻度について報告している。つまり、保育者が意図的に運動遊びを実践していく方法の一つとして、様々な運動遊び場面を用意することで、幼児の主体的な活動を引き出していける可能性がある。このことから、絵本のなかに数多くの基本的な動きを含むことに加え、様々な運動遊び場面を描くことで保育者が絵本を基に運動遊びや日常の保育の実践を展開していける可能性が高まるかもしれない。

他方で、絵本の構成として、村田(2021)が、幼児の絵本体験のあり方や絵本体験をひき出す絵本のつくりや構えについて、「登場人物たちと一体になって、子どもは絵本の世界に入っていく。そして、絵本の世界で彼らと一緒に冒険し、最後に絵本体験の満足や感動を心に満たして現実の世界に戻ってくる」とし、「行って帰る」構造の絵本の重要性を述べているように、幼児は絵本を通じて

想像の世界と、現実世界とを往還して楽しむ特性があると考えられる。こうした幼児の特性を踏まえて木村・松崎(2023)が、4歳～6歳の絵本の選び方のポイントの一つとして、安心したファンタジーの世界に没頭して楽しめる物語を選ぶことを示している。また、鯉坂(2020)は子どもに読みつがれる「よい絵本」の特徴として、繰り返し構造がみられることを報告している。これらのことを踏まえると、多様な動きの経験に考慮した絵本を開発する際、ファンタジーの世界に誘うような物語や繰り返し構造を用いることで、幼児が絵本に関心を持ちやすくなり、その後の遊びに展開していくなかで、多様な動きの経験に寄与する可能性が予想される。

以上のことから、今後は本研究で得られた知見を基に、幼児の多様な動きの経験に考慮した絵本を開発していく必要があると考えられる。さらに、春日ほか(2012)が幼児の身体活動量の視点から絵本の効果について明らかにしているように、開発した絵本が幼児の多様な動きの経験にどのような影響を及ぼすのか検討していくことが重要といえる。

## V. まとめ

本研究は、幼児の多様な動きの経験に寄与する絵本を開発するために、その基礎資料として、既存の絵本60冊に含まれる基本的な動きの種類と運動遊びを整理することを目的とした。その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 基本的な動きの種類は、選定した36種類の基本的な動きのうち、「つむ」を除く35種類の動きが確認された。
- 2) 運動遊びの種目は、分類した10系統すべての運動遊びが含まれており、81種目の運動遊びが確認された。

以上のことから、選定した60冊の絵本については「様々な種類の基本的な動きが含まれていること」、「各系統の運動遊びが偏りなく含まれていること」が明らかになった。



今後は保育実践への展開のしやすさや、幼児の遊びの展開に考慮し、幼児の多様な動きの経験に寄与する絵本を開発する必要があると考える。加えて、開発した絵本が幼児の多様な動きの経験に及ぼす影響について検討することも重要である。

## 参考文献

油野利博 (1988) 幼児の自由遊び中における動きの種類について, 鳥取大学教育学部研究報告, 教育科学, 30 (2), 263-273

鯉坂はるよ (2020) 絵本における繰り返し構造と結末の分析, 大阪千代田短期大学紀要49, 1-11

ベネッセ教育総合研究所 (2022) 第6回幼児の生活アンケート.  
[https://berd.benesse.jp/up\\_images/textarea/jisedai/research/yoji-anq\\_6/YOJI\\_chp1\\_P14\\_34\\_6.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/textarea/jisedai/research/yoji-anq_6/YOJI_chp1_P14_34_6.pdf), 2023年11月15日参照

堀内亮輔, 末永祐介, 長野康平, 篠原俊明 (2022) 幼児の運動遊びに含まれる運動能力の要素と基本的な動きの種類, 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, 57, 43-53

石井友光 (2010) 幼児の動作理解に関する言語知識から探る活動量及び知覚認識との相互関係, 発育発達研究, 46, 37-48

石井由依, 矢幅照幸, 若槻稜磨, 近藤雄大, 崎田嘉寛 (2021) 幼小接続を志向する運動遊び実践に関する研究, 帯広大谷短期大学地域連携推進センター紀要, 8 (0), 9-19,

春日晃章, 松田繁樹, 小栗和雄, 河野隆 (2012) 運動好きな子どもを育む効果のある絵本の開発ー絵本の効果を科学的に探るー, SSFスポーツ政策研究, 1 (1), 197-203

川崎徳子 (2019) 幼稚園における生活発表会の取り組み: 絵本の読み聞かせから劇遊びへ, 生活体験学習研究, 19, 59-61

木村美幸, 松崎洋子 (2023) 発達段階×絵本発達段階別成長の特徴とおすすめ絵本がわかる. 株式会社風鳴舎

厚生労働省 (2018) 保育所保育指針解説書. フレーベル館

文部科学省 (2012) 幼児期運動指針ガイドブック ~毎日楽しく体を動かすために~. 文部科学省

文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説. フレーベル館

文部科学省 (2018) 小学校学習指導要領解説体育編. 東洋館出版社

森司朗, 杉原隆, 吉田伊津美, 筒井清次郎, 鈴木康弘, 中本浩輝, 近藤充夫 (2010) 2008年の全国調査からみた幼児の運動能力, 体育の科学, 60, 56-66

村田康常 (2021) 想像力と絵本の世界への没入ー20世紀後半の絵本論のー主題としての「子どもと絵本との出会い」ー名古屋柳城女子大学研究紀要, 1, 79-116

中川素子 (2019) スポーツする絵本. 株式会社岩波書店

長野康平, 浅川孝太, 倉茂花苗, 中村和彦 (2019) 保育園と公園での自由遊びにおける身体活動量と発現する基本的動作, 日本幼少児健康教育学会誌, 4 (2), 71-80

長野康平, 中村和彦 (2021) 幼児の運動遊び場面における基本的動作と身体活動量の特徴: 異なる遊び環境に着目して, 発育発達研究, 90, 46-56

長野康平, 篠原俊明, 中村和彦 (2022) 保育所における自由遊びの観察からみた基本的動作の洗練化, 発育発達研究, 93, 1-11

仲本美央, 樋口正春 (2017) 絵本から広がる遊びの世界ー読み合う絵本これからの保育シリーズ ④. 株式会社風鳴舎

中村和彦 (1993) 子どものスポーツと今日の課題 (その1), 運動・健康教育研究, 2 (3), 1-15

中村和彦, 武長理栄, 川路昌寛, 川添公仁, 篠原俊明, 山本敏之, 山縣然太郎, 宮丸凱史 (2011) 観察的評価法による幼児の基本的動作様式の発達, 発育発達研究, 51, 1-18

内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館

小澤哲也, 金沢翔一, 長野康平, 浅川孝太, 中村

- 和彦 (2021) 伝承遊びを教材とした多様な動きをつくる運動遊びの授業実践：出現した基本的な動きと身体活動量による検討, 体育学研究, 66, 533-549
- 齊藤善郎 (2019) 子どもの主体的活動から生まれる幼稚園の運動会—絵本「ぐりとぐら」をテーマに—, 椋山女学園大学教育学部紀要, 12, 101-112
- 篠原俊明 (2018) 自由遊びにおける幼児の運動経験の実態, Leisure&recreation=自由時間研究, 43, 28-34
- 篠原俊明, 長野康平, 中村和彦 (2020) 園庭での自由遊びにおける基本的な動きの特徴—身体活動量の違いによる検討—, 日本幼少児健康教育学会誌, 6 (1), 13-22
- スポーツ庁 (2022) 「令和4年度体力・運動能力調査報告書」.  
[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k\\_detail/1421920\\_00010.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1421920_00010.htm), 2023年11月7日参照
- 杉原隆 (2014) 遊びとしての運動指導の基本指針, 杉原隆・河邊貴子編, 幼児期における運動発達と運動遊びの指導—遊びのなかで子どもは育つ—, ミネルヴァ書房, 36-38
- 杉原隆, 吉田伊津美, 森司朗, 中本浩揮, 筒井清次郎, 鈴木康弘, 近藤充夫 (2011) 幼児の運動能力と基礎的運動パターンとの関係, 体育の科学, 61, 455-461
- 杉原隆, 吉田伊津美, 森司朗, 筒井清二郎, 鈴木康弘, 中本浩揮, 近藤充夫 (2010) 幼児の運動能力と運動指導ならびに性格との関係, 体育の科学, 60, 341-347
- 体育科学センター (1980) 幼稚園における体育カリキュラムの作成に関する研究Ⅰカリキュラムの基本的な考え方と予備調査の結果について, 体育科学, 8, 150-155
- 武田俊昭, 赤木敏之 (2010) 幼稚園における外遊びの基本動作について, 教育学研究, 2, 53-60
- 富田昌平, 石川優, 岩附啓子 (2022) 絵本からはじまる空想と現実との揺れ動きを楽しむ保育実践, 三重大学教育学部研究紀要, 73, 405-418
- 矢幅照幸, 石井由依, 若槻稜磨, 近藤雄大, 崎田嘉寛 (2021) 絵本を用いた運動遊びの実践研究—保育内容「健康」・「言葉」に関する教材開発を視点として—, 北海道科学大学研究紀要, 49, 93-100
- 吉田伊津美 (2016) 幼稚園の運動遊びおよび小学校低学年体育で観察される基礎的運動パターン, 発育発達研究, 70, 48-54